

三井E&S造船、31万トン型VLCC引渡し

Edited By LogisticsToday On 2018/10/05



三井E&Sホールディングスは5日、三井E&S造船（東京都中央区）が千葉工場で建造していたアトランティス・シップ・ナビゲーション社向け31万トン型VLCC（大型タンカー）「イーグルトレーダー」を、2日に引き渡したと発表した。

同船は、日本の主要港への入港を考慮した主要目として最大級の載貨重量と貨物油タンク容積を持つVLCCで、次世代型エコシップとして燃費性能に優れる「neoVLCC」の3番船。6万6000重量トン型「neo66BC」にはじまる同社のエコシップタイプのラインナップ「neoシリーズ」の第5弾の建造船となる。

日本の主要港への入港を考慮した主要目で、VLCCとして最大の載貨重量31万トンを確保するとともに、さまざまな省エネ技術を駆使することで推進性能を向上させ、輸送効率向上を図っている。

最新の船首形状や船尾形状の採用、高効率プロペラ、省エネ装置装備により、省エネルギー化・環境性能を向上。訓練生（6人）の乗船を考慮し、36人の居住区設備を確保している。

■主要目

全長：339.5メートル

幅（型）：60メートル

深さ（型）：28.5メートル

総トン数：15万9625トン

載貨重量トン数：31万2424トン

主機関：三井-MAN B&W 7G80ME-C9.5ディーゼル機関 1基

最大搭載人員：36人

船級：NK

船籍：日本

引渡日：2018年10月2日

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト：<http://www.logi-today.com>

URL to article：<http://www.logi-today.com/327272>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.